

監修のことば



脊椎・脊髄疾患は、日常臨床上極めて身近な問題であり、整形外科、脳神経外科、神経内科、リハビリテーション科、麻酔科などいくつかの異なった専門分野で扱われています。専門分野ごとにいくつかの学会や研究会があり、それぞれ活発な活動がなされています。一方、MRIなどの画像検査や、電気生理学的な機能検査の進歩により、脊椎・脊髄疾患の診断学は著しい進歩をとげ、その進歩に伴い、治療法についても大いに発展してきました。このような状況の中で、脊椎・脊髄疾患治療における現況を総括的に理解しておくことは臨床医にとって極めて大切なことだと思われます。

本特集は、表題を『脊椎・脊髄疾患のニューロサイエンス―神経所見の診かたから再生医療まで』として、脊椎・脊髄疾患に関しできるだけ多くのテーマをとりあげ、今日のわが国における脊椎・脊髄疾患治療の水準を一般臨床医の方々に広く知っていただくように企画されています。

現代の科学は、学際的共同研究によって急速に進歩しつつあります。脊椎・脊髄疾患の診断と治療においても、このような境界領域における提携が必要なことはいうまでもありません。そのため専門性の枠を外し、臨床医に必要と思われる基礎的知識から最新の知識までを広く網羅すべく、この分野における国内の新進気鋭の専門家を中心に執筆していただきました。内容的には、臨床所見、検査法、保存療法、手術療法に至るまでの種々の疾患についての幅広い領域を俯瞰できる企画になっています。

執筆の先生方には、できるだけ具体的に記述していただき、実地臨床においても十分利用していただけるように配慮してあります。またどなたも、わが国におけるこの方面の第一線で活躍されている方であり、単なる文献紹介にとどまることなく貴重な自己の経験と研究成果を織りまぜて述べられ、内容的にも大変特徴あるものとなっています。脊椎・脊髄疾患研究の進歩を知る上でも貴重な書となり、読者の先生方にとって裨益するところが大きいと考えております。

臨床医にとって本特集号が、脊椎・脊髄疾患を治療する際に広い視野でその本質を考える一助になることを祈念しております。

2017年4月

山口大学大学院整形外科
田口 敏彦